

家族のライフステージの変化に 対応できる三世代住宅 (木造2階建)

要求図書については、1階平面図兼配置図、2階平面図、立面図、断面図、2階床伏図兼1階小屋伏図、
部分詳細図(断面)、面積表、仕上表及び計画の要点等とする。

なお、**外壁の仕上げ**については、試験問題において**指定した仕様**により行うものとする。

(注) 答案用紙には、1目盛が4.55mm(部分詳細図(断面)については10mm)の方眼が与えられている。

本年度対策のポイント

【近年の本試験の傾向】→自分で理解して図面で表現できるかを試される傾向があります。自身の判断力が試されます。形状等の立体的な理解、建物の構造的な理解、機能的な理解等が大切です。立面図・断面図・断面詳細図に表現する時にどのくらい理解しているかが相手に伝わります。断面図・断面詳細図は切った位置・そこからどちらを向いているかなど正確に自身で判断して表現できるようすること。立面図は指定された面の立体を正確に表現すること。さらに人による使い勝手、人による動線分離などを図面にしっかり設計しての表現が必要です。昨年の自分で判断する単純な具体例をあげると、「門・塀・植栽の記載」を要求されていませんでしたが、例年書くように要求される項目なので、不安で書いてしまった者はNGです。実際、書くことによって人の使い勝手が悪くなり間違いになってしまう課題でした。その設計条件において**自身で判断し勇気を持って表現**して下さい。

【家族のライフステージの変化に対応できる三世代住宅・木造2階建】→例年ひとつひとつのキーワードに分けて解説するのですが(例:ライフステージ・三世代住宅・木造2階建など)本年度は全てを包括して解説する必要があります。それはH27年の国土省の施策に関連しています。施策を簡単に説明すると三世代同居に対応した良質な木造住宅取得には補助金の支援があります。理由は、少子化対策の一環として、親世代が子育て世代の育児等を支援できる住宅を推奨しているためです。また、補助の対象の条件として、「キッチン、浴室、便所又は玄関のうち、いずれか2つ以上を住宅内に複数箇所設置する住宅」とありますので、本年度課題条件もこれに則って出題される可能性が高いと思われます。この施策より本年度課題を考えると三世代とは「親世代・子育て世代・孫世代」となり、ライフステージの変化は主に孫世代の変化を想定するのが一番の本命となります。さらに親世代の高齢化に対応できるような住宅の出題も想定できます。もちろんその他にも、三世代の構成、ライフステージの変化はありますので、いろいろな課題を練習する時の軸として上記を念頭に置いて練習すると上達もはやくなることと思われます。

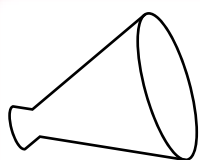
【外壁の仕上げ指定】→本試験史上初の条件となります。現在、実際の建物ではサイディングが使用される例が多いので納まりを確認して断面詳細図で表現できるようにしておきましょう。また、外壁の指定があるということですので、防火・準防火地域の指定がないかも注意して下さい。それに付随して延焼の恐れのある部分の復習もしてください。

【木造2階建】→2級建築士が設計できる木造2階建て住宅の延べ面積は1000㎡以下です。過去出題を調べると150㎡～270㎡と開きがあります。今年は家族の構成による動線分離とライフステージの変化による計画がポイントとなることは間違いありません。いろいろな課題を通して理解を深めて、動線・利用のしやすさを意識して、設計力(エスキス力)を養ってください。

【過去の類似課題】→二世帯住宅(=三世代住宅)の問題は多々ありますので、過去問は必須の勉強方法です。

【その他】→木造の年は作図量がありますので練習量に比例して結果がでる傾向にあります。**断面図・部分詳細図(断面)**においてどこを指定されても対応できるよう理解を深めて下さい。作図量だけでなく理解すべき項目が極めて増加しています。自分の受験番号を合格発表時に見つけるためには、今日から2ヶ月間全力で練習しなければいけないと肝に銘じて下さい。そして課題の日本語を正しく読み忠実に図面に表現し、綺麗に作図するように心掛けて下さい。作図スピードUPはもちろん、細かい条件を逃さないよう作図完了後の十分なチェックでしっかり得点すれば、必ず良い結果がみなさんに訪れます!

心からみなさんの合格の笑顔をお祈りします、がんばってください!



学科独学の受験生
完全サポーター宣言!



製図試験で失敗しない方法を
当学院の初回無料講座で
しっかりマスターしましょう。



名古屋建築資格学院

NAGOYA ARCHITECTURE DESIGNER QUALIFICATION ACADEMY



ナゴヤサイーナ
0120-758-317